



1 自己評価

I 評価結果

4項目(①②③④)を設定し、各項目について2～3つの具体的計画を立て実施し、次のように自己評価した。

①学力の向上(総合評価:B)

- 基礎学力の定着を図る。(B)
- 個、ペア、グループ、全体で話し合うなど考えを伝えたり深めたりする場面を工夫する。(B)
- 家庭学習の習慣の定着を図る。(B)

[主な達成状況]

- ・国語は漢字を中心に、算数は計算を中心に取り組み、基礎学力調査を実施した学年では、定着率が高まった。算数では、小数や割り算に課題がある。
- ・発表時の声の大きさや話形も全学年で共通なものを指導した。児童の60～80%の達成率である。
- ・【学び合う場面の工夫】では、学年や教科による差があり、国語や算数、理科では進んだが、全学年、全授業での深め合う場面設定には至っていない。
- ・家庭学習の目標時間の達成状況には個人差が大きい。平均低学年は90%、中学年は80%、高学年は80%の児童ががんばっていると答えている。

②豊かな心と体の育成(総合評価:B)

- 日々の生活、授業の中で、「認める、ほめる、励ます」を心がけ、自己有用感を育てる。(B)
- 『あ・ろ・は運動』に取り組む。(B)
- 縦割り班活動を通して、人間関係作りや高学年の自覚を高める。(B)

[主な達成状況]

- ・アンケート(学校は楽しい。仲の良い友だちがいる。自分には良いところがある。)の結果(11、2月)は、各項目とも90%前後である。学校が楽しくないと答えた児童10名、仲の良い友だちがいないが4人いた。該当児童については教育相談等の必要な指導を行った。
- ・あいさつの自己評価は肯定割合が90%と高かったが、地域の皆さんからは登下校中の様子について、声が小さいや元気がないという声もあった。
- ・はきものそろえは、トイレに枠を作るなどの効果で改善面が見られるが70%の達成率である。

③特別支援教育の推進(総合評価:B)

- 通常学級に在籍する特別な支援を要する児童の「個別的教育支援計画」を作成する。(B)
- 特別支援教育の推進のため、職員の指導力の向上を図る。(B)

[主な達成状況]

- ・作成した16名の「個別の支援計画」をもとに、全職員で研修を実施した。また、内容についても12月に見直しを行った。
- ・次年度入学予定者について、担当者が園を訪問したり保護者等に来校していただいたりして、4月にスムーズに支援のスタートがきれるように連携できた。中学校進学者についても同様の取り組みを行った。

④保護者・地域、保小中等との連携(総合評価:B)

- 学習支援地域本部事業に取り組み、学習支援ボを有効に活用する。(A)
- 勝北地区の保小中の連携を進める。(B)

[主な達成状況]

- ・学習支援ボランティアの活用は、年間14項目一延べ200名を越える皆さん、出前授業は24授業一約100名に入っていた。事前に活動のねらいを理解していただくための打合せ会を持ち、活動後は感想を書いていただきその後の指導に生かすようにした。

II 分析・改善方策

①学力の向上

- ・学習のルールや学習規律、ノートの書き方などを全学年で改善し、4月のスタートから指導する。
- ・基礎学力の定着・向上のために、朝学習や授業の始め5分等の活用を工夫して行う。内容は各学年の重要単元を中心に復習も含めたものにする。
- ・「市げんぼプロジェクト研究推進事業」や「県魅力ある授業づくり徹底事業(2年目)」に取り組み、授業力の向上をめざす。

②豊かな心と体の育成

- ・「こころも元気週間」の取組を継続し、教育相談、人間関係作り、特に「いじめ・不登校防止」の推進を図る。そのために児童の実態を踏まえ、アンケート項目を見直す。
- ・高学年の委員会活動の指導等を通して、児童の主体性を取り入れた縦割り班活動を進める。
- ・基本的生活習慣の取組については、PTA活動とも連携し進める。「あ・ろ」の連携について、保護者の意識を高める手立を工夫する。

③特別支援教育の推進

- ・引き続き「個別の支援計画」の充実や共有を行い、支援を進める。
- ・気になる児童や支援の必要な児童は、ケース会議で対応を協議し、保護者との連携や専門機関へのつながりも積極的に行う。
- ・特別支援教育の視点からの授業改善、ユニバーサルデザイン化を図る。

④保護者・地域、保小中等との連携

- ・学習支援地域本部事業を継続し地域の教育力を活用する。G.T.との打合せの充実を図ると共に、学んだことを公開する場も工夫したい。
- ・勝北地区保・小・中の連携のための組織作りや具体的取組(特に学力向上:共通の学習規律、職員研修等)を増やし、さらに推進していきたい。

2 学校関係者評価委員名

高橋重逸（勝北地区老人クラブ会長）	赤堀康弘（町内会勝加茂西支部長）	原行則（中村地区町内会長）
赤堀治之（教育後援会長）	小林久子（主任児童委員）	土井美鈴（学識経験者）
安東徳祐（学識経験者）	竹内卓朗（PTA会長）	

3 学校関係者評価

《学力の向上》《豊かな心と体の育成》《特別支援教育の推進》《保護者・地域、保小中等との連携》の4項目とも、評価 A であった。

（主な意見、提言等）

- 授業参観をしたが、児童の作品や学習の足跡など掲示や展示も工夫している教室が多かった。自分の考えをしっかりと発表できていたが、座っている姿勢が気になる子どももいた。先生はその都度注意してほしい。
- 自分を表現することはこれからの時代大切なことだ。授業でグループ学習等の工夫もいるが、お互いに自分の考えを出しやすい雰囲気の学級作りがその土台になると思うので、そういう学校をめざしていただきたい。
- 最近の子どもたちにとって、異年齢集団で過ごす機会が少ない。縦割り班活動は小規模校の良さを生かして意図的に活動する点で意義のあることだ。人間関係作りにもつながるので活動内容も工夫してほしい。
- 基本的な生活習慣は、単なる生活習慣にとどまらず、学びの基本である。保護者にも啓発し、引き続き取り組んでもらいたい。「あいさつ」や「はきものそろえ」も地区懇談会などでも話題に出して家庭でももっと取り組んでほしい。
- 配慮の必要な子どもの「個別支援計画」を作成することは大変な労力だろうが意義が大きい。職員で話し合い指導に当たっていただきたいし、きめ細かい指導をお願いしたい。
- 支援の必要な児童の保護者と担任（学校）との関係作りも大切である。また、学校以外にも教育相談ができる機関があることを保護者に情報提供していただきたい。
- 積極的に学校を公開できていて、学校に行きやすい雰囲気がある。地域は人材も豊富で協力的である。今後も活用し、勝加茂学区で育てていることを誇りに思うような子どもを育てていきたい。
- 学習支援ボランティアや出前授業の際、児童の活動がお膳立てされ過ぎて受け身的になっている学習はないか。打合わせをていねいに行い、ねらいに基づいた内容にすることが大切だ。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

今年度1年間、新たな教育目標、4つの重点、具体的な実施計画を作成し取り組んできた。来年度は下記のとおり、教育目標達成のための具体的な取組をさらに重点化・焦点化し教育活動の実践に努める。

《教育目標》

『心豊かで 自ら考え 学び合う 勝加茂っ子の育成』

《めざす子ども像》

・進んで考える子 ・思いやりのある子 ・最後までがんばる子

《重点目標》

◇ 豊かな心の育成

- ① 規範意識の向上に取り組むと共に、教育相談等を通して、一人一人を理解、支援しながら自己有用感や自尊感情を高め、たくましく自分の生活をきりひろく児童を育てる。
 - ◆ 全校集会、全校朝の会（委員会や学年の発表、全校合唱等）、成果発表会
 - ◆ こころも元気週間（1回/学期 6月、11月、2月）－アンケート、教育相談
- ② 同学年、異学年、縦割り班等の様々な集団活動を通して、お互いを思いやり、助け合う豊かな人間関係づくりを進める。
 - ◆ 縦割り班・異学年活動：清掃・勤労生産活動、集会活動、運動会、児童会活動
 - ◆ 豊かな人間関係作りの取組：なかよし遊び（月1回第2木曜）、なかよし集会（年2回）

◇ 確かな学力の向上

- ① 学習規律・学習習慣の定着と表現力・言語活動の充実を目的とした授業の質的な向上を図るとともに、自ら学ぼうとする姿勢を育てる。
 - ◆ 校内研修の推進（研究教科：国語）や授業の改善（相互参観等による実践交流・共通理解）
 - * 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業
 - * 魅力ある授業づくり徹底事業（H25、26年度指定）
 - ◆ すいすいタイム、きらきらタイム、読書活動、家庭学習の充実
- ② 特別支援教育の視点からの授業改善、個別の支援、指導力の向上をめざす。
 - ◆ 授業のユニバーサルデザイン化（板書・ノート指導・授業展開・教室環境等の統一、個別支援）
 - ◆ ICTの効果的活用・体験学習・G.T.等の多様な学習形態の工夫、放課後学習教室

◇ 健康・体力作りの推進

- ① 生活目標等による取り組みや、家庭とも協力しながらの基本的な生活習慣の確立を図る。
 - ◆ 生活目標（月目標、週目標）の取り組み：手立てと改善
 - * 重点項目：あいさつ・「はい」の返事、廊下を静かに歩く、はきものそろえ《あ・ろ・は運動》
 - ◆ 家庭との連携：早ね早おき朝ごはん（特に就寝時刻）、ノーメディアにチャレンジ（勝北地区）
家庭での《あ・は運動》の奨励
- ② 体育授業の充実、外遊びの奨励などを通して、体育的活動を充実させ体力作りを進める。
 - ◆ 体育授業の充実（単元構成、授業展開、新体力テスト分析）、水泳・陸上記録会への挑戦
 - ◆ 体力作り：全校運動（なわとび、持久走）、ゲームや遊びの紹介（身体柔軟性、瞬発力）

◇ かかわり合う学校作り

- ① 地域の人材・資源を活用して体験的学習に取り組む、地域に根ざした特色ある学校づくりを行う。
 - ◆ 「勝加茂発見」の取り組み：社会科、理科、生活科、総合的な学習等の授業
 - ◆ 地域の名人・外部講師の活用：学習支援ボランティア、出前授業、地域に働きかける活動
 - * 学校支援地域本部事業（コーディネーターとの連携）
- ② 学校の教育活動の発信と受信を積極的に行い、勝北地区保・小・中、保護者、地域、関係機関との連携を推進する。
 - ◆ PTA総会・役員会、学級懇談会（学級PTA活動）地区懇談会等での情報・意見交換
 - ◆ 保・小・中、地域関係団体（学校評議員会、民生委員・主任児童委員、保護司）との連携：情報交換、定期的な懇談会の実施